

## 1. 評価結果概要表

### 【評価実施概要】

事業所番号	4071501078		
法人名	医療法人 光輪会		
事業所名	グループホームフェニックス		
所在地 (電話番号)	福岡県大牟田市新町395番地 (電話) 0944-56-5588		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年12月17日	評価確定日	平成22年2月9日

### 【情報提供票より】(平成21年11月30日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.5 人	

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 実費 円
	または1日当たり 円		

#### (4) 利用者の概要 (11月30日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.4 歳	最低 76 歳	最高 98 歳		

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	大牟田セントラルクリニック
---------	---------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「フェニックス苑」は、緑の多く残る閑静な住宅地の中に位置している。ホーム前には公園や公民館があり、近隣のスーパーへの近道となるホーム傍の小径は、散歩や落ち葉掻きの途中で、近所の方々とふれあう場所となっている。元々寮であった建物を改修して運営されており、家庭的な雰囲気がある。医師である代表者が毎日ホームを訪れ、入居者の健康観察を行っており、充実した医療との連携体制や職員のチームケアにより、重度化やターミナルケアへの対応が行われている。開設して8年目を迎えており、少しずつ重度化していく中で、できる限り社会参加の機会を持てるよう支援している事業所である。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果については、運営推進会議にて報告している。センター方式の活用も含め、介護計画作成までのプロセスや記録方法等について、継続して取り組んで行く意向がある。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価作成を職員全員で分担して行い、日々の支援を振り返り、確認する機会として、評価を有効活用している。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	家族代表・地域代表・長寿社会推進課職員・包括支援センター職員等の参加にて、2ヶ月に1回、定期開催されている。現状報告や意見交換、課題検討を行い、運営に反映させるよう取り組んでいる。議事録を作成し、後日参加者へ送付している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	ご意見箱が設置されている。2ヶ月に1回開催される家族会において率直な意見交換が行われており、運営に反映させるよう努めている。家族会議事録からも、積極的な意見交換がなされている事が伝わる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	公園への散歩やスーパーへの買い物、近所の散策やホーム周辺の清掃等、日常の中で地域の方々と自然な交流を育んでいる。少しずつ重度化していく中で、正月行事のどんど焼きや清掃活動等、できる限り社会参加の機会をもてるよう取り組んでいる。

2. 評価結果(詳細)

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	理念「笑顔 尊敬・尊厳 安全」の基に、5項目の基本方針を掲げており、「グループホームを地域に開かれたものにする」とともに、地域社会の一員として生活することを支えます。」と示している。地域密着型サービスとしての意義を踏まえた、独自の理念が作られている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念を目に付きやすい場所に掲示し、カンファレンス等において、理解と共有を育んでいる。入居者の方々にとって笑顔あふれる場所となるよう、「自分だったら」「自分の親だったら」と振り返りながら、理念の実践に努めている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	公園への散歩やスーパーへの買い物、近所の散策やホーム周辺の清掃等、日常の中で地域の方々との自然な交流を育んでいる。少しずつ重度化していく中で、正月行事のどんど焼きや清掃活動等、できる限り社会参加の機会をもてるよう取り組んでいる。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価作成を職員全員で分担して行い、日々の支援を振り返り、確認する機会として、評価を有効活用している。評価結果は、家族会・運営推進会議にて報告し、検討しながらサービスの向上につなげるよう取り組んでいる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	家族代表・地域代表・長寿社会推進課職員・包括支援センター職員等の参加にて、2ヶ月に1回、定期開催されている。現状報告や意見交換、課題検討を行い、運営に反映させるよう取り組んでいる。議事録を作成し、後日参加者へ送付している。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

## グループホーム フェニックス苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	あんしん介護相談員の受け入れを行っており、年2回の意見交換会に参加している。サービス事業者会議や認知症ケア研究会等に参加し、行政との意見交換や情報共有の機会としている。		多様な社会資源の窓口、連絡相談の窓口として、行政との更なる連携を模索しており、地域における福祉拠点としての役割りを担う事業所として、今後の働きかけに期待したい。
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	現在制度を活用している方はいないが、研修参加や資料の整備等、職員の意識を高め、活用に向けての支援が行えるよう体制の整備に努めている。法人に関わる弁護士が、年1回グループホームを訪問し、家族の相談に応じる体制がある。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	2ヶ月に1回、「フェニックス便り」を作成し、日々の暮らしの様子や、行事報告、行事日程等を掲載し、写真と共に送付している。利用料納付時等、家族が来訪された時には、暮らしぶりや健康状態の報告を行なっている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	ご意見箱が設置されている。2ヶ月に1回開催される家族会において率直な意見交換が行われており、運営に反映させるよう努めている。家族会議事録からも、積極的な意見交換がなされている事が伝わる。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	平成20年より、法人間での兼務体制からホームの専任体制とし固定化を図っており、馴染みの関係づくりに配慮された体制づくりが行なわれている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	法人としての募集となり、採用にあたっては、有資格者を優先しているが、年齢や性別による排除は行なっていない。資格取得希望者や家庭の事情を考慮し、勤務調整等の支援を行っている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

## グループホーム フェニックス苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	毎月行なわれる法人内研修の中で、人権教育として身体拘束や倫理について取り上げている。年間研修計画には必ず人権教育を取り入れ、日々意識しながら取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	法人として年間研修計画が作成されており、多様な内容にて、毎月内部研修が行なわれている。また外部研修に参加した場合にも伝達研修を行い、毎朝のカンファレンスにおいて確認する等、実践に活かされるよう取り組んでいる。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	サービス事業者協議会や認知症ケア研究会に加入しており、定期的な研修に参加し、意見交換や情報の共有を行い、サービスの質の向上に努めている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	本人・家族と面談し、状況の把握に努めながら、納得してサービスが開始できるよう、十分に対話するよう努めている。見学等を行い、少しずつ入居者の方々や職員との馴染みの関係づくりを行なっている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	時間の許す限りゆっくりと話をすることで、家族も知らなかった特技を教えてくれる事もあり、日々の暮らしの中から共に喜びを見出しながら、共に支えあう関係を構築している。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

## グループホーム フェニックス苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	センター方式の活用に取り組みながら、生活歴や心身状況等、一人ひとりの情報を把握し、職員間で話し合いながら支援している。少しずつ重度化していく中で、家族や職員間で本人本位に検討しながら、安全、安楽な暮らしとなるよう日々努めている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	今年度より受け持ち制度を導入し、介護計画作成に反映させていくよう新たな取り組みを行なっている。介護計画作成までのプロセスや記録方法についての検討も行なっており、今後の充実に期待したい。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	定期的な見直しとともに、状況の変化に応じて、計画作成担当者を中心として、家族や職員、医師と話し合い新しい計画を作成している。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	医師である法人代表者が毎日来訪し、健康状態の観察を行なっており、家族からの信頼も厚い。同法人のデイサービスの浴室を利用して、仰臥位入浴にも対応している。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	かかりつけ医による毎日の往診があり、希望や必要に応じて、他医療機関受診への支援を行っている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

## グループホーム フェニックス苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化や終末期における指針を示し、家族に同意を得ており、入居者・家族の意向を確認しながら、関係者間での話し合いを重ね、方針を共有している。職員の緩和ケアに対する意識・知識を高めながら、ターミナルケアに対応している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの人格を尊重し、誇りを損なわない対応となるよう、カンファレンス等において確認している。ファイル等、個人情報については、入居者の名前等が見えないよう工夫しながら管理・保管している。1階スペースで生活する方々のプライバシーの確保について、継続して検討して欲しい。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	食事は一緒に摂るようにしているが、それ以外の時間は、一人ひとりのペースや習慣を尊重した支援に努めている。希望や体調に配慮しながら、入浴や散歩、買い物や個別活動等、それぞれに応じた支援となるよう努めている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	法人内の厨房での調理となり、炊飯をホームで行なっている。後片付けやおやつ作り等とともに行なうこともあり、職員とともに食卓を囲んでいる。厨房との連携を密にし、一人ひとりの状況や嗜好に配慮するよう努めている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	日曜日以外は、毎日の入浴に対応している。同法人のデイサービスの浴室を利用して、ストレッチャーでの入浴にも対応している。入浴を拒否される方には無理強いとならないよう、曜日や時間、職員を変更してみる等、気持ちよく入れるようタイミングを探している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

## グループホーム フェニックス苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	紙芝居を演じる事が得意な方がおり、図書館等で借りてきて、披露してもらっている。一人ひとりの力が発揮できるよう、洗濯物たたみや新聞紙の加工、庭掃除やおやつ作り等を、職員とともに行なっている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	入居者の希望や状況に合わせて、公園への散歩やホームの庭や周辺の掃除、車椅子での外出等、外気を感じれるよう支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	家族会及び運営推進会議において、施錠や拘束についての話し合いを行ない、家族の希望により安全性を優先して、玄関・トイレ・浴室等が施錠されている。今後も継続した課題として、検討して欲しい。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	消防署の立ち会いのもと、避難経路の確認や消火器訓練等を実施している。また消防署の協力により、AEDの使用法等、緊急時の対応について研修を予定している。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	厨房での献立・調理となり、個々の状況に応じた食事形状に対応し、全量摂取となるよう支援している。水分摂取量の目安を1000mlとして、職員が把握しながら支援している。厨房からは食事の感想や希望の確認があり、常に連携しながら工夫している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム フェニックス苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	季節に応じた飾り付けや行事の写真が掲示されている。寮を改修した建物であり、十分な広さを持つ。ソファの配置により、それぞれがくつろいでいる姿がある。2階の居室へは階段を利用した移動となり、昇降機が設けられているが、現状としては利用されていない。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室は2階が主体となり、自宅から使い慣れた家具等が持ち込まれている。重度化が進む中で2階への昇降が困難になってきており、1階スペースで生活する方が増えている現状があり、今後の部屋づくりを課題としている。		1階スペースで生活する入居者が増えてきており、QOLの維持、プライバシーの確保等への工夫を検討して欲しい。
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			